

『今を突き抜ける change Your Mind』

つやま産業塾「経営力開発講座」第25期開講

回	講師氏名	会社名	役職	内容
1	安川 幸男	合同会社 イキナセカイ	代表	受講生が受講するにあたってのマインド セットや意識づけ
2	小田 裕和	株式会社 MIMIGURI	Manager/D esign Researcher	意味のイノベーション
3	竹内 哲也	株式会社 アイレップ	執行役員	デジタルマーケティングの最前線
4	中村 一浩	株式会社 Project Design Office	代表取締役	感情的知性を磨く・対話学
5	齋藤 潤一	特定非営利活動 法人まちづくり GIFT	代表理事	スタンフォード流デザインシンキング
6	井上 千絵	株式会社 ハッシン会議	代表取締役	メディアとのリレーションシップを築く ～広報PR戦略の全体像～
7	佐藤 正和	株式会社 アーテラ	代表取締役	連続起業家が語る事業創出論
8	安川 幸男	合同会社 イキナセカイ	代表	「第25回つやま産業塾」総括及び結果 発表

開催期間：令和3年6月18日（金）から12月17日（金）

つやま産業塾「経営能力開発講座」第25期 第1回講義
「開講式／ワークショップ」

日時：令和3年6月18日（金）18：00～20：00

会場：津山市役所東庁舎3階 E302 会議室

講師：産業塾塾長 則次 俊郎 氏

合同会社イキナセカイ 代表 安川 幸男 氏



つやま産業塾「経営能力開発講座」第25期 第2回講義
「意味のイノベーション」

日時：令和3年7月9日（金）18：00～20：45

会場：オンライン会議システム「Zoom」

講師：株式会社 MIMIGURI Manager/Design Researcher 小田 裕和 氏

ファシリテーター：合同会社イキナセカイ 代表 安川 幸男 氏

当初 PORT ART&DESIGN TSUYAMA（ポートアート&デザイン津山）でのリアル開催を予定していたが、令和3年7月9日に大雨警報が津山地方に発令されたことに伴い、オンライン会議システム「Zoom」を使用しての開催に切り替え実施した。講義内容は、座学及びグループワーク中心であり、「なぜ、イノベーションを起こさないといけないのか?」、「問いを持つこと」、「本質的な問とは」等のワークをオンライン上で5グループに分かれて行った。

つやま産業塾「経営能力開発講座」第25期 第3回講義
「デジタルマーケティングの最前線」

日時：令和3年7月30日（金）18：00～20：30

会場：アルネ・津山4階地域交流センター

講師：株式会社 アイレップ 竹内 哲也 氏

ファシリテーター：合同会社イキナセカイ 代表 安川 幸男 氏

前半部分は、現在のデジタル化のトレンドについて座学中心に説明があった。近年はメーカーが直接消費者に販売するモデル（DtoC）の動きが活発（例：キリンビールのおうちサーバー等）。こうした中、デジタル人材が不足しており、企業によってはデジタル人材の育成が会社の方針となっている。また、デジタル化により、業界の垣根が崩れており、業界が変わってくるのが身近に起こりつつある。アナログの良さの部分も見直されている。一部の店舗では、オンラインとオフラインを活用して、OMOのマーケティングが行われている。（例：アダストリアの店舗）

◇後半は、「自社業務におけるデジタル化の影響」「自分自身のキャリアにおけるデジタル化の影響」について、グループに分かれて話し合いを行った。

◇最後に、これからのデジタル化社会においては、求められる力を学び続ける力が必要であり、色々なキャリアを経験すること、学習する能力が重要であると締めくくった。

つやま産業塾「経営能力開発講座」第25期 第4回講義
「感情的知性を磨く・対話学」

日時：令和3年8月27日（金）18：00～20：30

会場：リモート（Zoom）

講師：株式会社 Project Design Office 中村 一浩 氏

ファシリテーター：合同会社イキナセカイ 代表 安川 幸男 氏

令和3年8月20日～9月12日まで岡山県にまん延防止等重点措置の対象地域となったことに伴い、ポートアート&デザイン津山での開催予定であったが、オンライン会議システム Zoom を活用して実施。場所の変更等で大きなトラブルはなかった。

約2時間半の講義の内容は、対話についての講義と参加者同士のワークを中心に進められた。



つやま産業塾「経営能力開発講座」第24期 第5回講義
「スタンフォード流デザインシンキング」

日 時：令和3年9月17日（金）18：00~20：30

会 場：ポートアート&デザイン津山（リモート開催）

講 師：一般財団法人こゆ地域づくり推進機構 代表理事 齋藤 潤一 氏

ファシリテーター：合同会社イキナセカイ 代表 安川 幸男 氏

令和3年9月13日から30日まで岡山県がまん延防止等重点措置の延長となったことに伴い、ポートアート&デザイン津山での開催予定から、オンライン会議システム Zoom を活用して実施した。場所の変更等で大きなトラブルはなかった。なお、齋藤講師（ワクチン接種済）は、津山にお越しいただいたが、塾生はオンラインでの参加とした。

約2時間半の講義の内容は、「スタンフォード流デザインシンキング」についての講義と参加者同士のワークを中心に進められた。参加者から本日の講義について、学びたいことや期待することが発表された後、その中のキーワードを拾いながら講義が始まった。講師からは、デザインシンキングとは、スケッチのようなものであり、答えはないものである。現在進行形の英語表記のように、良い問いを続けて、行動しながら考えていくことが重要と説明があった。

<キーワード>

- ・1勝99敗（早く失敗すること）
- ・ドントジャッジの精神（失敗と思わなければ失敗ではない）
- ・宮崎の人口一万人の町から上場企業を作る
- ・同じテーマでも、人によって思っていること感じることは様々
→ゴールが違うことを意識してほしい。
- ・物事を「俯瞰」してみることが大切。「木も見て、森も見る」

つやま産業塾「経営能力開発講座」第25期 第6回講義
「メディアとのリレーションシップを築く ～広報PR戦略の全体像～」

日 時：令和3年10月15日（金）18：00~20：30

会 場：アルネ・津山 4階 地域交流センター 会議室

講 師：株式会社ハッシン会議 代表取締役 井上 千絵 氏

ファシリテーター：合同会社イキナセカイ 代表 安川 幸男 氏

株式会社ハッシン会議 代表取締役 井上 千絵 講師にオンラインで登壇していただき、津山会場はオフライン集合のハイブリット形式での開催となった。広報PRについて、ワークを交え、質疑応答形式で様々な角度から講義していただいた。

<キーワード>

- ・広報PRと広告の違いについて（ワーク）

→広報PRは社会と企業間の信頼を築いていくもの。

・スタートアップ企業の広報PR最大化戦略

東京と地方の広報の発信力の違いがなくなっている。

消費者がメディアになっている時代

場所にとらわれずに、自分たちにあった発信を

5つの発信力が重要 ライティング力・撮影力・デザイン力・SNS力・メディア力

撮影については、横長サイズが基準。撮影担当者を社内で決めておく。動画のQRコードを入れておく
投稿して拡散していくことが重要。サムネイル画像がかなり重要。

・企業の発信力は人に帰属してしまう。チーム広報が大切。

広報には広報の先生を付けること

実行のポイント 自分たちの現在地を知る。半年から1年のスパンで中長期的な戦略を立てる。

・5つの発信力の5点は非常に重要であり、自らの現在地を知ることが重要。

つやま産業塾「経営能力開発講座」第25期 第7回講義
「連続起業家が語る事業創出論」

日時：令和3年11月19日（金）18：00~20：30

会場：アルネ・津山4階

講師：株式会社 アーテラ 代表取締役 佐藤 正和 氏

ファシリテーター：合同会社イキナセカイ 代表 安川 幸男 氏

「連続起業家が語る事業創出論」と題し、佐藤氏にご登壇いただいた。安川氏は、ファシリテーターとして、講師と塾生のつなぎ役を務めた。佐藤氏は、大学在学中の18歳から起業しており、現在までに20社（20分野）の起業している。現在は日本茶業界に関心を抱き、(株)祇園辻利のブランド戦略顧問も務めている。また、神戸大学や岡山大学での学生への講義など、教育活動もこれまで18年間続けている。自身の起業経験からくる最新の経営学について、懇切丁寧に説明していただいた。

起業家（アントレプレナー）に関するエフェクチャルアートシンキングとは以下の考え方である。起業家（アントレプレナー）は①と②の間で繋げる（繋ぐ）役割を担っている。

①社会の理想を掲げ（社会の課題が解決された世界）

②顧客にとっての意味を提起し（顧客にとっての課題が解決された世界）

③自己の2者を巻き込みながら（自己が2者から共感される）

④価値創造（社会的価値と経済的価値）

既存の市場を変えることは難しいので、新たな顧客を作り出していくほうが話は早いとのこと。アイデア自体に価値はない⇒何かを手掛けるかより、誰と手がけるかが重要

価値創造＝課題創造

イノベーション（既知×既知＝未知） は “新結合”

つやま産業塾「経営能力開発講座」第25期 第8回講義
「成果発表」・「閉講式」

日 時：令和3年12月17日（金）18：00～20：30

会 場：アルネ・津山4階

講 師：合同会社イキナセカイ 代表 安川 幸男 氏

塾 長：則次 俊郎 氏

第1回の開講式から約半年間で7名の講師による講座を受講し、それぞれのプログラムから感じた自分なりの思いや考えを整理し成果発表が行われた。日常の立場やポジションから離れ、個人の「内発的動機（衝動）」についてアウトプットすることで、塾生同士の情報共有も行われた。

具体的な事業プランを説明する者、各プログラムから得たキーワードを軸に今後の自身について語る者、日常の業務から離れた場所で学ぶ機会を得たことで新たな発見があった者、異業種との連携を深めることができ刺激を得た者など、塾生それぞれが感じたことを発表した。

閉講式では、則次塾長から塾生のアウトプットに対する講評が行われた。修了条件に達した者には修了証書を郵送した。

コロナ禍での開催であったが、全8回をオンライン・集合形式のハイブリットで開催することができ、塾生同士の連携も大きく深まった。今後の塾生同士の継続的な繋がりについてもフォローしていきたい。

